

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム あいあい

目標達成計画

作成日 : 令和 4年 3月 31日

目標達成計画は、自己評価、及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題の焦点化が難しくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	長引く感染症対策を行ったことにより、地域交流、連携が少なくなっているのが問題である。	運営基準に基づいた地域との連携、利用者に関しても住み慣れた地域で、その人らしい生き方を出来るように地域との連携、顔なじみになれるような関係性を築きたい。	定期的な催し物によって、お互いが無理なく交流を深めるような状況に応じて対応を行う。	12か月
2	33	急変、事故発生時に備えての職員の初期対応を定期的に行い実践力を身に付け、レベルアップを図る。	全職員を含め迅速な救急対応を出来るようになり、利用者、その家族が施設で安心して生活できるようにする。	事業所内研修により職員には緊急対応のマニュアルを周知し、かかりつけ医、訪問看護に連絡をするときは緊急性を除いて、不得手の職員にも実際に対応を行ってもらい緊急時に備える。	12か月
3	35	平時では疎かになる災害時の対応避難マニュアルの把握、有事では必要な感染症対策をマニュアル化し、周知を図る。	災害時の避難場所をマップに頼らず職員が要になり、不安を与えることなく誘導でき、随時食料を把握し確保出来る。	非常災害時には避難経路の確保は当然のことだが、非常時の水や食料の常備品の確保を行う。感染症においては塩素やアルコールを用いての清掃、施設内の換気を行い、共用品の使用を行わない。	12か月
4	47	服薬のセットは管理者が行っていて、職員同士で服薬の確認を行っているが、マンネリ化し錠剤の数や利用者様の名前だけの確認をしている時があるのが問題点。	職員一人ひとりが訪問診療時に処方された薬の確認を意識し、薬の効能や経過も意識し、薬名の把握を出来るようにする。	統一した内服マニュアルの作成、職員同士の内服確認もしっかりと行い、薬の重要性の理解認識を常に意識して日々取り組む。	12か月
5	19	日々感染症対策を行い生活しているが、昨今の状況により家族との面会制限、電話連絡を取り合っても顔が見れない、触れ合えない利用者様の現状。	施設生活を送っていても皆が穏やかに暮らし、御家族においても家族が健康で楽しく暮らせている事を可視化したい。	タブレット端末を利用し、家族とのテレビ電話の活用を行う。ホームページを作成し、活動や安心して過ごしている日常風景の記載を行う。職員へは機器の操作を周知する。	12か月

注) 項目の欄については、自己評価項目の番号を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。